



## 平成27年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月10日

上場会社名 シンワアートオークション株式会社  
 コード番号 2437 URL <http://www.shinwa-art.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 倉田 陽一郎

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 益戸 佳治

TEL 03-5537-8024

四半期報告書提出予定日 平成27年4月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年5月期第3四半期の連結業績(平成26年6月1日～平成27年2月28日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年5月期第3四半期	1,306	54.9	△122	—	△131	—	△98	—
26年5月期第3四半期	843	—	13	—	3	—	5	—

(注) 包括利益 27年5月期第3四半期 △102百万円 (—%) 26年5月期第3四半期 0百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年5月期第3四半期	△17.33	—
26年5月期第3四半期	1.14	1.08

(注) 1. 平成26年5月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成26年5月期第3四半期の対前年同四半期増減率については、記載していません。

2. 当社は平成25年12月1日付で、普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

3. 平成27年5月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年5月期第3四半期	3,010	1,514	50.0	265.33
26年5月期	2,860	1,644	57.1	288.65

(参考) 自己資本 27年5月期第3四半期 1,504百万円 26年5月期 1,632百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年5月期	—	0.00	—	6.00	6.00
27年5月期	—	0.00	—	—	—
27年5月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年5月期の連結業績予想(平成26年6月1日～平成27年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,728	169.1	304	124.7	286	134.3	163	50.1	28.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年5月期3Q	6,526,100 株	26年5月期	6,516,100 株
② 期末自己株式数	27年5月期3Q	854,800 株	26年5月期	859,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年5月期3Q	5,659,138 株	26年5月期3Q	5,251,297 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 411「当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成26年6月1日～平成27年2月28日）におけるわが国の経済は、政府の金融政策、財政政策の効果もあり、株価や雇用環境の改善等一部に良好な指標が見られ、また消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動からの回復が遅れていた個人消費に関しましても、消費マインドにようやく下げ止まりの兆候が見られるようになり、これらを背景に全体としては緩やかな回復基調が続いております。

しかしながら、海外では中東やウクライナ情勢などの地政学リスクが高まっており、中国・新興国の景気減速懸念や原油価格の下落と相まって引き続き国内景気を押し下げるリスク要因となっております。

美術品取引業界においては、一昨年から昨年にかけての先高期待感のある市況から変化して、政局を反映した格好で一服感がでており、全体としては先行き不透明な状況に推移しております。

このような環境のもと、当社グループは、当社の主たる事業であるオークション関連事業において高額美術品を中心とした優良作品のオークションへの出品及び富裕層を中心とした美術品コレクターのオークションへの参加促進に努めるとともに、再生可能エネルギー関連事業及び医療機関向け支援事業においては、安定的な収益の早期確保に向けた体制の構築に努めました。

セグメントの業績は次のとおりです。

## ①オークション関連事業

当第3四半期連結累計期間は、近代美術オークション、近代陶芸オークション、近代美術PartⅡオークション、西洋美術オークション、ワインオークション、Bagsオークション及びJewellery&Watchesオークション（ブランド雑貨を含む）を開催したほか、特別オークションとして「棟方志功―漆黒の宇宙、紅色のいのち」を開催し、取扱高2,797,863千円（前年同期間比1.5%増）となりましたが、前年同期間と比較して販売委託の商品の取り扱いが増加した反面、利益率の高い在庫商品の取り扱いが減少しており、その他、社内規定に基づく在庫商品の評価減の積み増し、販売費及び一般管理費の増加により、売上高717,844千円（前年同期間比7.8%減、内商品売上高218,559千円（前年同期間比21.8%減））、セグメント損失110,400千円（前年同期間はセグメント利益32,601千円）となりました。

## i) オークション事業

種別の業績は次のとおりです。

種 別	第26期第3四半期連結累計期間							
	自 平成26年6月1日 至 平成27年2月28日							
	取扱高 (千円)	前年比 (%)	売上高 (千円)	前年比 (%)	オークション 開催数	オークション 出品数	オークション 落札数	落札率 (%)
近代美術オークション	1,479,780	1.7	290,806	△12.9	4	567	463	81.7
近代陶芸オークション	180,000	14.1	45,892	27.3	3	678	634	93.5
近代美術PartⅡオークション	152,212	△23.4	38,933	△28.2	4	1,094	993	90.8
その他オークション	666,261	△6.1	150,215	△3.4	8	2,773	1,844	66.5
オークション事業合計	2,478,253	△1.7	525,848	△9.3	19	5,112	3,934	77.0
プライベートセール	247,685	102.1	151,628	29.9				
その他	71,923	△35.8	40,368	△51.1				
オークション関連 その他事業合計	319,609	36.2	191,996	△3.6				
オークション関連事業合計	2,797,863	1.5	717,844	△7.8				

- (注) 1. 取扱高の前年比率と売上高の前年比率の乖離の大きな要因のひとつに、商品売上高の増減があります。商品売上高は、オークション落札価額に対する手数料収入、カタログ収入、年会費等と同様に当社の売上高を構成する要素であり、当社の在庫商品を販売した場合、その販売価格（オークションでの落札の場合には落札価額）を商品売上高として、売上高に計上することとしております。
2. オークション関連事業の事業構造として、オークションが第2四半期及び第4四半期に多く開催される傾向があるため、四半期連結会計期間別の業績には季節的変動があります。

主力の近代美術オークションは、前年同期比で出品点数21.4%増、落札点数20.3%増と共に大きく増加し、落札価額も落札予想価格帯（エスティメイト）下限合計額に対して平均129.1%の伸び率でした。取扱高は、ほぼ前年並みの実績であるものの、その内訳は、前年同期との比較では、販売委託の商品の取り扱いが増加した反面、利益率の高い在庫商品の取り扱いが減少しており、取扱高と売上高の前年比率の乖離はそれを示すものであります。

近代陶芸オークションは、前年同期比で出品点数11.1%増、落札点数12.8%増と共に増加しました。落札価額も落札予想価格帯（エスティメイト）下限合計額に対して平均113.0%の伸び率と、順調な成績を収めております。取扱高と売上高の前年比率の乖離は、手数料の増加（前年同期比17.3%増）の他、商品売上高の増加が主な要因であり、在庫商品の取り扱いが前年比で増加していることを示すものであります。

近代美術Part II オークションは、前年同期比で出品点数25.5%減、落札点数27.0%減と共に大きく減少し、その結果、取扱高、売上高共に前年同期比で大きく減少いたしました。オークション事業全体的に高額品に人気が集まる状況にあって、低価格帯の作品の取扱いは低調な結果となりました。

その他オークションでは、ワインオークションが、取扱高、売上高共に前年実績を大きく上回り、また特別オークションとして開催した「棟方志功―漆黒の宇宙、紅色のいのち」は、出品点数は22点と少ないながらも、平均落札単価は1,300万円を超え、セグメントの取扱高、売上高に大きく貢献いたしました。大小合わせて6回の特別オークションを開催した前年同期との比較では、取扱高及び売上高は共に減少しております。

#### ii) オークション関連その他事業

プライベートセール部門では、当第3四半期連結結果計期間も積極的な取り扱いに努めました。その他、貴金属等買取サービスを積極的に行いました。プライベートセールの取扱高と売上高の前年比率の乖離は、手数料の増加の他、商品売上高の減少が主な要因であり、前年同期との比較で、利益率の高い在庫商品の取り扱いが減少する一方、手数料収入を収益とする商品の取り扱いが増加していることを示すものであります。

#### ②再生可能エネルギー関連事業

当第3四半期連結結果計期間は、各社競合や設備認定制度の利権化により建設用地の獲得が容易には進まず、個々の案件開発に想定以上の時間がかかる状況にありました。そのような中、当社グループは、50kW級小型太陽光発電施設の自社単独の用地確保、建設販売を基本としながらも、必ずしもそれに囚われることなく、場合によっては比較的規模の大きい1MWクラスのものまでを視野に入れ、また、建設や販売など強みを活かした他社との役割分担という選択肢も含め、可能な限り多くの案件数を手掛けていくこととして事業に取り組んでまいりました。

昨年の一部電力会社の連系保留措置により、第2四半期連結会計期間末までに予定しておりました九州地区の50kW級小型太陽光発電施設3基の連系販売が保留・延期となったことから、その後の電力会社との連系保留となるリスクを回避するため、取り扱う案件をさらに絞り込み、電力会社への本申請が終了し電力会社からの系統連系工事負担金請求書を受領している、確実に連系可能な発電施設の建設請負・施工・販売事業のみに限定することといたしました。

このような状況において、平成26年9月以降、特に50kW級のような低圧型太陽光発電施設の取り扱いを増やすことで早期に建設工事を終えて電力会社との連系を急ぐ動きが加速し、これにより当社グループでは、平成27年3月までの販売体制を大幅に強化する必要に迫られることとなり、結果として販売費及び一般管理費が当初見込みより大幅に増加することとなりました。

また、当社グループにおいて平成27年3月連系の50kW級小型太陽光発電施設建設案件が増加したため、業務の遂行上、当第3四半期連結結果計期間の連系販売予定の案件のうち一部を、平成27年3月の連系販売に切り替えたため、当第3四半期連結結果計期間の50kW級小型太陽光発電施設の販売は22基となりました。

当社所有の宮崎県西都市の穂北太陽光発電所（1MW級）の売電収入は、天候が例年より荒天であったため、予想を若干下回る結果となりました。

以上により、当第3四半期連結結果計期間の当社グループの再生可能エネルギー関連事業の売上高は588,717千円（前年同期比817.1%増）、セグメント損失9,400千円（前年同期は9,699千円のセグメント損失）となりました。

## ③その他

医療機関向け支援事業におきましては、一昨年6月より診療報酬債権ファクタリング事業を開始し、医療機関向けファクタリングのための具体的折衝を随時行っておりますが、当社の第7回新株予約権に係る資金調達の遅れと、当社からの一時貸付を再生可能エネルギー関連事業に対して優先的に行っていることにより、投資機会を見送る状況にあります。

以上により、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,306,873千円（前年同期比54.9%増）、経常損失131,285千円（前年同期は3,080千円の経常利益）、四半期純損失98,099千円（前年同期は5,973千円の四半期純利益）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、3,010,676千円となり、前連結会計年度末と比べ150,564千円増加いたしました。その主な内訳は現金及び預金の減少520,932千円、商品共同投資の減少240,853千円とオークション未収入金の増加54,353千円、製品の増加118,208千円、仕掛品の増加528,323千円、その他流動資産の増加279,076千円であります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、1,495,807千円になり、前連結会計年度末に比べ280,423千円増加いたしました。その主な内訳は短期借入金の減少342,000千円と長期借入金(1年内返済含む)の増加252,625千円、前受金の増加387,721千円であります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,514,868千円になり、前連結会計年度に比べ129,858千円減少いたしました。その主な内訳は利益剰余金の減少132,037千円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月期通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績及び現状の事業状況、事業環境を勘案した結果、概ね平成27年1月9日に公表いたしました業績予想の範囲内で推移しており、現時点において同予想値に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,273,261	752,328
売掛金	5,065	3,798
オークション未収入金	26,100	80,453
商品	462,129	425,038
製品	100,583	218,792
仕掛品	55,590	583,914
前渡金	235,137	221,710
その他	84,613	363,689
貸倒引当金	△31	△386
流動資産合計	2,242,449	2,649,339
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,410	6,175
機械装置及び運搬具(純額)	291,873	278,495
車両運搬具(純額)	567	236
工具、器具及び備品(純額)	5,563	4,269
有形固定資産合計	305,415	289,178
投資その他の資産		
商品共同投資	240,853	-
その他	85,212	86,064
貸倒引当金	△13,819	△13,905
投資その他の資産合計	312,246	72,159
固定資産合計	617,661	361,337
資産合計	2,860,111	3,010,676
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	4,669	5,740
オークション未払金	52,585	50,849
短期借入金	696,500	354,500
1年内返済予定の長期借入金	28,500	279,186
未払法人税等	20,310	4,621
賞与引当金	18,484	6,219
役員賞与引当金	24,415	9,626
前受金	15,648	403,370
その他	51,410	73,861
流動負債合計	912,523	1,187,974
固定負債		
長期借入金	249,375	251,314
退職給付に係る負債	33,500	36,450
資産除去債務	7,386	7,469
その他	12,600	12,600
固定負債合計	302,861	307,833
負債合計	1,215,384	1,495,807

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	920,203	921,363
資本剰余金	524,953	526,647
利益剰余金	412,053	280,016
自己株式	△222,826	△221,530
株主資本合計	1,634,383	1,506,496
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,708	△1,708
その他の包括利益累計額合計	△1,708	△1,708
新株予約権	6,507	8,995
少数株主持分	5,544	1,085
純資産合計	1,644,727	1,514,868
負債純資産合計	2,860,111	3,010,676



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成27年2月28日)
売上高	843,641	1,306,873
売上原価	342,276	850,039
売上総利益	501,365	456,833
販売費及び一般管理費	487,799	579,398
営業利益又は営業損失(△)	13,565	△122,565
営業外収益		
受取利息	165	307
受取査定報酬	671	568
為替差益	1,932	2,860
受取保険金	1,800	-
未払配当金除斥益	-	731
その他	911	401
営業外収益合計	5,481	4,868
営業外費用		
支払利息	5,594	12,972
持分法による投資損失	1,124	-
新株予約権発行費用	8,554	-
その他	693	616
営業外費用合計	15,966	13,588
経常利益又は経常損失(△)	3,080	△131,285
特別利益		
新株予約権戻入益	1,777	-
特別利益合計	1,777	-
特別損失		
固定資産除却損	1,450	-
事務所移転費用	2,318	-
特別損失合計	3,769	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,089	△131,285
法人税、住民税及び事業税	5,540	1,264
法人税等調整額	△6,273	△29,990
法人税等合計	△733	△28,725
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,822	△102,559
少数株主損失(△)	△4,150	△4,459
四半期純利益又は四半期純損失(△)	5,973	△98,099

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成26年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年6月1日 至 平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	1,822	△102,559
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,638	-
その他の包括利益合計	△1,638	-
四半期包括利益	183	△102,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,334	△98,099
少数株主に係る四半期包括利益	△4,150	△4,459

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年6月1日 至平成26年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	オークション関連事業	再生可能エネルギー 関連事業	計		
売上高	778,784	64,196	842,981	660	843,641
セグメント利益 又は損失(△)	32,601	△9,699	22,902	△9,336	13,565

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、医療機関向け支援事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自平成26年6月1日 至平成27年2月28日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	オークション関連事業	再生可能エネルギー 関連事業	計		
売上高	717,844	588,717	1,306,561	312	1,306,873
セグメント利益 又は損失 (△)	△110,400	△9,400	△119,801	△2,763	△122,565

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、医療機関向け支援事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

セグメント利益又は損失 (△) の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失 (△) と一致しております。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社及び当社の連結子会社は、オークションの企画、運営を行うオークション関連事業と再生可能エネルギー関連事業、医療機関向け支援事業を行っております。

前連結会計年度末より、より合理的な経営判断を行うために、報告セグメントを従来の「近代美術オークション」、「近代陶芸オークション」、「近代美術Part II オークション」、「その他オークション」、「プライベートセール」、「再生可能エネルギー関連事業」の6区分から、「オークション関連事業」、「再生可能エネルギー関連事業」の2区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。